6-1

関係詞が説明する名詞に the をつけてしまう

日本人に最もありがちな勘違い

まずは次の日本語を英語で表す場合、なぜ①がよくないのかわかりますか？

●「アメリカは天然資源の豊富な国だ」

（△）①The United States is ***the*** country which has a lot of natural resources.

（○）②The United States is **a** country which has a lot of natural resources.

①を△にしたのは、theが文法的に誤りというわけではなく、この場合、内容的におかしいからなのです。

しかし実際のところ、なぜtheを使ってはいけないのか疑問に思う方が多いのではないでしょうか。

これは昔から、日本人のあいだでなぜか相当根深い誤解あるいは勘違いの一つなのです。すなわち、「名詞が関係詞などの修飾語句で限定されると、その名詞には必ずtheがつく」というものです。本書を読んでいる方も、今までこう思い込んではいませんでしたか？「たかが冠詞されど冠詞」です。

冠詞の使い分けとその有無に関しては、一般的に以下のような原則があります。

《冠詞使い分け原則》	
a / an（不定冠詞）	①他にも同種のものがある
	②相手にとって未知の情報
the（定冠詞）	①自動的に一つに決まる
	②お互い了解済みのもの

「天然資源の豊富な国」はアメリカ以外にもありますので、the countryではなく、a countryとします。つまり、**関係詞が続こうと続くまいと、冠詞は先行詞となる名詞の意味によって決まります。**

●「原宿は若者に人気の街だ」

（△）①Harajyuku is ***the*** place which is very popular among young people.

（○）②Harajyuku is **a** place which is very popular among young people.

「若者に人気の街」は何も原宿だけでなく、他にもありますので、theではなく、a placeが妥当です。これも文法的に誤りというより、事実や一般常識に反するという理由でaが妥当ということです。

もちろん、関係詞がつくことで、自動的に一つに限定されたり、お互い了解済みのもの、という意味が出る場合は、theがつきます。

●「原宿は私の生まれたところです」

（×）①Harajyuku is ***a*** place where I was born.

（○）②Harajyuku is **the** place where I was born.

生まれたところ＝「出身地」は普通（というより常に）一つに限定されてきますから、the placeとしなければなりません。

これらの原則は、修飾語句が関係詞でなくてもあてはまります。

●「彼女は早稲田の学生だ」

（○）①She is **a** student at Waseda University.

（×）②She is ***the*** student at Waseda University.

the studentとすると、早大生は彼女一人だけということになってしまいます。これでは早稲田大学はつぶれてしまうので、まずいでしょう。

この問題は、結局のところ、日本人の冠詞に対する理解の不十分さに関係